

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	290500032		
法人名	社会福祉法人 柏友会		
事業所名	グループホームふくうら		
所在地 (電話番号)	〒037-0022 青森県五所川原市梅田字福浦349番地2 (電話) 0173-33-6056		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 2月 5日	評価確定日	平成 21年 3月 11日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 550 円			

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.3 歳	最低	66 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎胃腸科内科医院、布施病院、成田歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所独自の理念を、管理者、職員が共同で作成し、共有することで、入居者が身体的、精神的な満足を得られるための取り組みが行われている。建物は、窓が大きく、室内には入居者の作品や写真等が飾られていた。職員と入居者が一緒に作業をしたり、談笑したりと全体的に温かい雰囲気である。広報活動を行い行事に参加していただく等、地域や家族との関わりを積極的に行っており、現在では入居者以外の介護相談の窓口にもなることもある等、地域で果たしている役割は大きい。今後も、より地域に密着した事業所として、地域、家族からの積極的な意見の聞き取りや関わりが増えるような取り組みをしていくことで、入居者にとってよりよいサービスが提供されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題については、職員会議や運営推進会議等で検討され改善されている。地域との関わりでは、積極的な広報活動が行われ、行事等で交流を図っている。事業所の理念については、BS法(ブレインストーミング法)を用いて全職員からの意見をまとめ、独自のものが作成されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で話し合いながら自己評価を作成している。事業所のマニュアルや緊急時の体制等は整えており、今後も定期的な見直しを含め、事業所にあったものとなるように努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催され、グループホームの取り組みを説明している。また、その場においては積極的な意見交換がされ、一体的なサービスの改善に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>職員は家族の面会時等、随時意見を聞くように努めており、介護計画等に活かしている。また、月に1回は、家族への金銭管理明細や広報誌、近況報告を送付し情報提供に努めている。玄関には苦情箱の設置や切手を貼った封筒を用意することで、自由に意見を出しやすいよう配慮されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し、積極的な広報活動を行ったり、地域住民が参加できる行事を開催して交流を図っている。日頃から挨拶等を交わし、なじみの関係を作るよう努めており、近所の方が野菜を持ってきたり、1人で外出している入居者を発見した際に連絡をくれたりと、地域住民のグループホームや認知症に対する理解が開設当初に比べ数段に深まってきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が意見を出し合い、「自由」という言葉をキーワードに、本人の思いや在宅からの地域との関係を大切にしたいということが理念として掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームに掲示されているものの他、名札の裏にも理念が記載されている。また、毎朝の申し送り時に理念を復唱することにより、職員共通のものとして業務が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民に広報活動を行い、行事に参加していただいたり、町内会からの誘いを受けて、地域の行事に参加する等、積極的な交流が図られている。入居者家族以外でも介護についての相談を受ける等、地域に根ざしたホーム運営が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については、会議等の場において話し合わせ、全職員が意義を理解している。改善点についても全員で意見を出し合い、改善に向け取り組んでいる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域の代表、市職員、法人の代表等が参加しており、和やかな雰囲気の中、意見交換が積極的になされている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が市役所を訪れた際等、積極的に交流を図っている。また、必要に応じて随時、運営やサービスの課題について相談をする等、円滑な関係を保っている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者がいるため、必要な知識を共有している。また、定期的にマニュアルを回覧したり、研修に参加したりして知識の習熟に努めている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加する他、申し送りや会議等でも検討する機会を設け、虐待防止の必要性等について職員の理解が深められる取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づき、事業所でできること、できないこと等について十分な説明を行い、家族等の理解が得られている。また、退居後についても相談を受け、母体施設(特別養護老人ホーム)の申し込みや他施設を紹介する等の支援を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>緊急時はすぐに連絡・報告する他、月に1回、金銭管理報告、ホームの広報誌等を家族に送付している。比較的頻繁に家族が訪問しており、その都度本人の近況を伝えるよう努めている。また、食事体験会を開催し、普段の暮らしぶりを知っていただくと共に食事についての意見等の聞き取りを行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は家族の面会時等、随時意見を聞くように努めている。出された意見については、会議等で話し合わせ早期解決に努めている。また、苦情箱の設置や切手を貼った封筒を用意することで、自由に意見を出しやすいように配慮されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、異動による影響を十分に理解しており、職員の異動は必要最小限で行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会の他、職員の希望等も考慮し、外部研修にも積極的に参加しており、資質向上に努めている。研修に参加した際は会議等で復命報告をし、知識の共有を図っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームとお互いに行事参加をし、交流を図っている。西北五グループホーム協会に加入しており、年4回の研修の際に情報交換等の交流の機会を持っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学を勧めたり、自宅を訪問することで、本人、家族の不安を軽減し、早く馴染めるように努めている。入居の際には、馴染みの家具、寝具を用意してもらい、ベッドの向き等にも配慮し環境を整備している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に食事を作る。新聞、テレビの話題について笑いあいながら話す等、和やかな雰囲気の中、協働しながら生活できるような配慮や場面作りが感じられた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション等で本人の意向を聞きだし、随時対応したり、介護計画の作成等に活かしている。聞き出した意向については、記録し、職員間で情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等の意向や要望を尊重をするとともに、日常的な関わりの中での職員からの意見や、主治医、管理栄養士、看護師からの助言を元に介護計画の作成が行われている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回、介護計画の見直しが行われている他、状態の変化が見られた際は、本人・家族・関係者と話し合いの上、随時見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	フリーで動ける職員を1名配置しており、予定日以外の緊急的な病院受診や行事以外の外出等にも要望に応じて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続しており、遠方でも受診対応している。事前に急変時の入院先、緊急受入れの病院等を医師・家族と相談し決めている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族等の意向を確認し、主治医とも相談している。また、終末期に向けた方針を職員間で共有し、受け入れ体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人の生活歴や性格を把握し、本人の尊厳を傷つけないよう言葉かけ等を行っている。また、不適切な表現をしないよう記録等にも配慮している。居室入口には苗字のみが書かれた表札がつけられている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活パターンは全体で決まっているが、個々の生活リズムや意向に沿い、やりたいことを優先して支援を行っている。歩き回ることが多い方は、職員が付き添って町内を散歩する等している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、後片付け等を入居者のできる範囲内で共に行っている。また、近所の方からもらった野菜等を漬物にする際、入居者の方に作り方を教わるなどして、個々人の力を活かした支援を行っている。外出時には、外出先での食事もしている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴できるようにしている。現在は入居者の希望により、週2～4回程度、足浴も個々の希望で随時対応している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居前の生活歴や趣味等を把握し、食事の準備、後片付け、洗濯物畳み等、日常生活の中でそれぞれに役割を持って過ごせるよう支援している。レクリエーション等は、個々の能力を考慮した上で、希望に応じたものを行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>入居者や家族の希望に応じて、買いものや理美容など、個々の馴染みの店に出かける他、定期的な外出行事や町内行事への参加など、日常的な外出支援がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止であり、環境整備や見守りを行うことで事故防止に努めている。また、法人全体での取り組みを行うことで、情報共有がなされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動を制限しないため、日中玄関には鍵をかけず、外出したい方がいる場合は必ず職員が同行し外出している。2階の居室は転落事故防止のため、窓が全開にならないよう配慮されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の避難訓練とホーム独自の避難訓練を行っている。また、日頃から地域の住民にも協力を要請しており、災害時へ備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士により献立が作成されている。食事・水分量は毎日記録され、不足している際は補うようにし、健康管理に努めている。間食等による過剰摂取の可能性がある場合は、食事の量を調節する等の配慮がなされている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいを徹底すると共に、身の回りのものを消毒、除菌し感染予防に努めている。感染時の個室対応や流行時期の対応等について、マニュアルも整備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>行事の写真や入居者が作ったものなど思い出のあるものを飾ったり、観葉植物や花等によって四季を感じさせる工夫がされている。また、換気等による温度・湿度の調整が行われ居心地の良い空間づくりに努めている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた家具、寝具を持ち込んでおり、配置等にも配慮されている。また、個々に思い出の写真や作品を飾っており、それぞれが個性的でその人らしい部屋となっている。</p>		

 は、重点項目。